

# 第11回 明日のビジネスを担う 女性たちの交流会 in 大阪 開催レポート

開催日時 2023年9月20日(水) 15時~16時半 開催方式 Zoomでのオンライン開催

今年度もオンラインで開催し、約190名が参加されました。女性役員3名をパネリストにお迎えし、コーディネーターの当財団関西事務所長の佐野由美より、いくつかのテーマや質問を投げかけ、各パネリストのこれまでのキャリアの振り返りを通じて、難しいオファーに躊躇しながらもチャンスを掴む心構えや、上司部下とのかかわり方、自分自身の視座の持ち方など、具体的なエピソードの中から、参加者が一つ上のポジションを担っていくための勇気をいただきました。



当財団関西事務所長 佐野由美

## パネリストからのメッセージ



**樋口 敦子 氏**  
住友ファーマ株式会社 常務執行役員渉外、秘書、人事担当

住友化学に研究職として入社しましたが、配属が医薬の研究部門だったので、部門ごと住友製薬に転籍し、その後、他社との合併も経験しました。その後、研究職から広報部門に異動になり、海外事業も経験するなど、幅広く業務を経験しました。

研究部門から本社部門に異動し、海外の製薬会社との提携業務を担当することになった際、前任者から十分な引継ぎを受けることができず、過去の経緯を確認しながら、毎日山のように届く英文メールに返信していくという時期の“必死になって泳いだ”経験が、「大変なことでもなんとかなる」という自信につながったと思います。

また、広報部門で部長のオファーをもらったときは、それまで部長になることなんて全く考えたこともなかったので、泣きそうになって、過去と一緒に仕事をしたことのある役員にも相談したり、いろいろ悩んだ末に引き受けました。自分が実務に精通していない業務で判断を求められるポジションに置かれて苦労しましたが、視野は広がりました。



**影浦 智子 氏**  
オリックス株式会社 執行役 コーポレート部門 企業法務管掌

入社以来、主に法務やコンプライアンス、監査など企業法務の仕事をしてきました。商法から会社法への大きな法改正があったときは、社内規定や制度設計の変更のみならず、グループ会社のガバナンスに至るまで広範囲にわたる業務を、一つ一つ関係部門と連携して取締役会に諮るまで、期限もある中で歯を食いしばって働いたとき、大きな達成感を感じました。

また、上司が急に異動てしまい、役員が直属の上司になった時期もあり、気軽に何でも聞ける環境でなくなったため、一段目線を上げて「どうしたらいいでしょうか」ではなく「自分はこうしたいと思うけれど」というように、相談の仕方を変えるといった経験が自分の成長に結びついたと思います。



**富澤 五月 氏**  
西日本旅客鉄道株式会社 理事 近畿統括本部副本部長 和歌山支社長

私が入社した当時は女性が非常に少ない職場でしたが、岡山、神戸、和歌山、博多といった現場と、運輸や人事といったスタッフ系の業務の両方を経験できた上に、さらにJRグループのホテルにも出向するなど、弊社の中では幅広いキャリアを歩んできました。

キャリアを重ねる中で、人財育成に携わりたいという希望をかねてから持っていました。新卒の採用も増え、若手社員が車掌や運転士として活躍はじめた頃ですが、自分には車掌経験がないにもかかわらず90人の車掌が在籍する現業機関で係長になったときは本当に苦労しました。車掌業務を車掌からも学びつつ、業務を全体として捉える努力も重ね、「これはオカシイのではないか?」と思ったときは、単にオカシイと言うだけでなく「こうしたらいいのではないか?」私の提案が間違っていたらアドバイスしてほしい」と前に進めるかたちで周囲とやり取りしました。「同僚や車掌に共感してもらい、チーム力を発揮するためにはどう伝え、動いたらよいのか」について、じっくり考える機会だったと思います。

## キャリアに好影響を与えてくれた人

- 母の看護が必要になり、職場と実家を往復する日々が数ヶ月続き、仕事をしばらく休もうかと上司に相談したところ、「あなたの人生は自分で決めたらいいけれど、仕事とプライベートは0対100じゃないだろう。だから休むとか辞めるとか、全部100%頑張り切るということではなく、その時々に合わせて配分を変えたらいいんじゃないかな?」「休むとしても仕事との接点は持っておいたほうがいい」とアドバイスしてもらつたことが、今でも自分に響いています。上司という立場になり社員から相談を受けることも増えましたが、このときのアドバイスを軸にして社員に向き合っています。【富澤氏】
- 入社した時の上司がとても厳しい人でしたが、ある程度任せてくれる人でもあったので、与えられた仕事に食らいついでいくスタンスで働きました。自分だけで考えたら、まあこれくらいでいいかというレベルに対して、もっと難しいボールを投げてこられたので、何とか打ち返そうとして仕事のキャパシティが広がったという経験があります。また、会社合併をした直後の上司が相手方の会社出身者だったのですが、非常にフラットな人で、どっちの会社だからということもなく、他部門と揉めたときには一緒にやって交渉してくれたりととても助けられたので、自分もどんな相手でも協力しながら仕事をするスタンスを学びました。【樋口氏】
- 専門性の高い業務だと、異なるバックグラウンドの人と一緒に働く機会が少ないので、珍しく30年ずっと営業だったという人が上司になつたときに、「組織とは、細かい業務ではなく人をマネジメントするものだよ」と言われ、それまで自分もつい細かいところが気になつてしまっていたので、人を見て、その人のいいところをいかに伸ばすか、苦手なところをどうお互い補い合うか、そういう組織として動くことの大切さを教わりました。【影浦氏】

## 役員になった時の苦労や、なつてからの影響

- 広報で役員になりましたが、会社の中のポジションが一段上がると、視野が、見えるものや入ってくる情報は全然違うので、ホライズンがパッと広がったという感じがすごく、今だから綺麗な言い方しますけど、そういうことで自分自身のものの考え方とか、会社がどういうふうに動いてるんだとか、広報ですから会社のことを社外の、アナリストや記者に説明するという立場に置かれたことによって、会社がどういうふうに成り立っていて、何を目指して、どうしているんだということが理解できましたし、それによって自分の果たすべき役割も認識できたと思います。そして私みたいな人でも、部長・役員になっていると他の人が思ってくれていたとしたら、それは好影響かなと思います。【樋口氏】
- 和歌山支社長を任命されたとき、腰を抜かすくらい驚いて、すごく高い下駄を履かされたんじゃないかなと、着任までの1ヶ月あれこれ悩みました。でもいよいよ着任の時期が迫ってきたら、「高い下駄なんだったら今はちゃんと履けなくても1・2年かけて履きこなしたらいい」、「選んだのは会社じゃないか」と腹をくくりました。支社長という仕事は特に地域共生という役割があり、自治体や地元企業の皆様との接点が多いのですが、和歌山支社では初めての女性の支社長ということもあり、支社のメンバーから聞くところによると、この人はどんなことを考えてるんだろうと関心を持っていたいしているようです。関心を持っていただいているとしたら、非常にありがとうございますし、これからいい影響を社内外に巻き起こせればと思います。【富澤氏】
- 私は社内的人事異動の流れの中で内部昇格で役員になり、それまでに部門長経験も1回、3年間だけでしたので、なかなか経営視点が持てずにいました。「会社として、グループとしてどうあるべきなのか、あるべき姿は何なのか、ありたい姿は何なのか、そこから引き戻してじゃあ今は何をしなければいけないのか」と考えるよう何度も言われました。自分では一つ上の目標を持つことを意識していたのですが、今から思えば奥行きが足りなかったと思います。なるべく俯瞰して足元の小さいことにとらわれすぎないスタンスは今のポジションになってからの新しい気づきで、自分にとっても大きな変革です。女性役員ということについては、まだ数が少なく、今自分がこのポジションに「いる」ことが必要だと思うので、一人でも増えるように、仮に歯を食いしばっていても、笑顔で頑張っていけたらと思います。【影浦氏】

## 参加者へのメッセージ

- オファーがあったら、ぜひ受けてください。知らない自分に出会えます。できない人に会社はアサインしませんから。引き受けて、子どもができるたらどうしようとか、夫が転勤にならうどうしようとか、女性は先々の心配をしがちな傾向がありますが、「そうなつたら、なつた時だ」というぐらいの腹のくくり方をしてぜひ受けていただきたい。そして、受けた後も100%やろうと思わないで、頑張りすぎないで、自分が今できることをちゃんとやって、それでもできなかつたら助けてくださいと言いまくって、助けてもらうことも恐れずに頑張ってほしいと思います。【樋口氏】
- 自分の限界を自分で決めてしまうことなく、あれかこれかではなくて、あれもこれも、ぜひ積極的にいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。これから先、出産や介護等、いろいろな転換点はあるでしょうが、30年以上働くことを考えると、長い会社人生の中のちょっとした変化なんじゃないかな、と捉えることもできると思います。その時々でやれるだけやってみて、バランスを変えながら、しなやかに前に進んでいただきたい。そして健康第一で、心身ともに健やかに、自分が築き上げてきた一つ一つのキャリアがかけがえのない財産なので、自信を持って一歩一歩前に進んでほしいと思います。【影浦氏】
- できないことが頭をよぎり、なかなか前に進めないことがあると思いますが、できないときこそ、まさに気づきをたくさん得て成長している時だと思ってください。今迷ったり悩んだりしている人は、ご自身が一皮むけるチャンス、あるいはもう一段上の景色を見るきっかけだと思って、少し長い目で一歩ずつ歩んでいただけたらと思います。【富澤氏】

★当日の開催レポートの詳細を当財団ホームページで公開中です。ぜひご覧ください。

<https://www.jiwe.or.jp/diversity/networking-event/osaka230920/report>